

様式第 3

会 議 録

会 議 名	令和 3 年度 野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第 1 回就労支援部会（専門部会）
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	議題 1 新型コロナウイルスへの対応について 2 農福連携への取組について 3 その他
日 時	令和 3 年 12 月 10 日（金） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
場 所	市役所 8 階 大会議室
出 席 委 員	会 長 加藤 満子 部会長 柄澤 隆一 池田 実代 金澤 敏行 北川 綾 金城 和子 工藤 達 新井 聡美 小俣 文宣 田中 大介 下川 典子 内藤 鉄也 日向 直子 藤井 美智子 藤澤 洋一 宮野 洋子 田中 徳寿 千田 照（代理出席：松崎 遥嘉） 藤井 周（代理出席：北山 佳祐）
欠 席 委 員	並木 徹
傍 聴 者	1 名
事 務 局	山崎 優（障がい者支援課相談支援係長） 田中 邦将（障がい者支援課相談支援係主事） 山中 巖（農政課課長補佐）
議 事	令和 3 年度 野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第 1 回就労支援部会（専門部会）の会議結果（概要）は、次のとおりである。

相談支援係長	【開会】 令和3年12月10日午後1時30分、開会した。会議録作成のため録音機を使用することの了解を得た。傍聴者1名の傍聴を許可したことを報告した。 【議題1 新型コロナウイルスへの対応について】 昨年度までは、新型コロナウイルスへの対応として臨時的に在宅でのサービス利用（テレワーク）を認めていたが、令和3年度の報酬改定において今年度以降は、常時の取扱いとなった。しかし、これまで同様、在宅でのサービス提供であっても、効果的なサービス提供が必要となる。そこで、現在在宅でサービスを利用されている方の状況や各事業所で工夫している点、効果的なサービスを提供するために課題と感じていること等あれば、意見交換、情報交換をお願いします。
柄澤部会長	事業所の課題について何かあるか。
金澤委員	多機能事業所ということで、合同で行う行事や作業等も多かったが、小規模で行わなければならなくなった。作業においては、協力し合って行っていたものを、いかに生産効率を下げずに小規模で行えるか話し合った。
柄澤部会長	同じようにみんなで一緒に行えなくなったことにより、生産効率が維持できなくなって苦労した事業所はあるか。
池田委員	仕事量が減ることはなかったが、利用者が減ったことによりその分スタッフが頑張って対応した。
内藤委員	仕事量は減らなかった。
宮野委員	緊急事態宣言中は作業も少なかったため、広々と間隔を空けて作業に取り組めた。最近はまた作業も増えてきた。
下川委員	利用者は減らなかったため、問題はなかった。
日向委員	昨年度は、お昼の販売以外にも地域のお祭りなど行事がなくなったため、劇的に売上が減ってしまった。コロナが落ち着いてきて売上も戻ってきてはいるが、コロナ前ほどにはなっていない。
柄澤部会長	売上が減ったということは工賃も減ったのか。

日向委員	月平均で 3,000 円ほど減っている。
工藤委員	あすなろと同様営業自粛により活動としては厳しいものがあったが、在宅でのサービスにならないよう他の活動先を提供できた。テイクアウトブームに乗じて、弁当販売など販売展開を変えた。
柄澤部会長	営業自粛等により何らかの補助金を頂いた事業所はあるか。 (頂いた事業所はなかった。) 各事業所はこの状況を耐え忍んだということ。この状況で最も影響を受けるのはA型事業所ではないか。
田中委員	緊急事態宣言中は一か月くらい事業所を閉め、その間リモートワークで対応した。物流会社からの委託で、利用者の人数で契約を結んでいるため給料に影響はなかった。コロナの補助金を頂き、空気清浄機やエアコンを購入した。
新井委員	元々利用者は少ないが、農福連携として利用者の三分之一が農業を行っていたので、場内の利用者は密を避けて作業を行えた。内職作業は基本出来高制だが、作業が止まることはなかった。コロナの影響で自粛しても構いませんと通知していたが、利用者のほとんどが来所し、体調を崩す方もいなかったため通常どおりの支援が行えた。
柄澤部会長	アンケートで質問があったが、コロナ禍で、これから就職する人への影響は何かあったか。
工藤委員	一昨年は、見学、実習について企業の方からお断りが多かった。少しコロナの感染状況が緩和しても、すぐに中止となるなど、見学、実習を開催したり、やめたりということを利用者はほとんど実施できなかった。市には柔軟な対応を取っていただき、就労移行支援の利用を延長してもらい、今年度も就職活動を頑張っている。
柄澤部会長	今年に入って、求人は増えたか。
工藤委員	求人が増えたというよりは、状況を見ながら再開しているという印象。積極的に行っているということではない。
柄澤部会長	ナカポツで把握しているものだと、障がいのある方を雇用している企業は大きく二つに分かれ、丸々出勤を停止させ、給与補償で約6割支給するので自宅で待機してもらうパターンと、

	どうにか仕事を作るから労働を提供してもらい、分散出勤で対応するパターンに分かれた。ごく一部、給与補償もなく、仕事もなくなったという企業もあったが、ほとんどの企業がどうかしようという動きがあった。今年度に入ってから、出勤停止にしていた企業は、ローテーションで出勤し、会社の事情により自宅で待機している分、その日数の6割を補償している。結果として月の収入は減っている現状にある。飲食店については、店が閉店し、営業時間が短縮となるなど、今まで働いていた時間がなくなったために離職せざるを得なくなった人がいた。今は、また飲食関係の人手が足りなくなった。健常者だけでは足りず、過去に働いていた障がいのある方にもまた戻ってきてほしいと声がかかっており、戻った方もいる。雇用に関しては活発になってきた。ハローワークが求人開拓に動いている。前向きな企業は増えているが、実際に求人が増えるのは来年度になるかと思われる。 その他、コロナ関係で困ったこと、共有したいことはあるか。
田中委員	今年の9月に流山街道沿いに大きな物流倉庫ができて、パートの賃金を時給1,400円で雇用しており、市内の物流会社で人手不足となっている。障がいのある方にも働いてほしいと要望を受けており、20名ほど派遣しているため、事業所内は人が減っている。
加藤会長	野田市に物流会社を誘致するに当たっては、障がい者雇用を条件に許可していると聞いているが、実情はどうなっているのか。
柄澤部会長	ナカポツの情報として、事業所を開所するに当たって、障がいのある方も雇用したいという声は聞いている。しかし、健常者の人たちでベースができておらず、受け入れる準備もできていないため、もう少し待つてほしいといわれている。
加藤会長	参考情報で野田市は余り影響なかったとのことだが、平均工賃について新聞に掲載されていた。全国での月当たりの平均はB型で16,369円から593円減って15,776円になり、A型は78,975円から650円増えて79,625円となっている。
柄澤部会長	他の話題になるが、事業所としての訓練費が減った事業所はあるか。（ほとんど変わっていない。） 地域活動支援センターさくらでは、利用者の変化はあるか。
藤澤委員	家に引きこもる方たちが増えた。新規の利用者もあまり増えていない。電話で本人の様子を確認している。利用者は減って

小俣委員	いるので来年度の補助金が減ってしまうことを危惧している。仕事は東京の土産の箱折が多いため、昨年はコロナの影響もあり仕事は減った。最近の仕事量については回復してきた。 地域活動支援センターすまいるでは、利用者は減っておらず、登録者は増えている。体験して登録するが、毎日とは来ない。人と接するのに神経質になっている。
加藤会長	特別支援学校で、卒業生の進路、就職状況について、コロナの影響は受けたか。
北山 氏	福祉就労については実習を通常どおり行い、無事全員が内定をもらった。企業就労について希望者は6人いて、内定、内々定を頂いている者が4名、残り2名については実習をしているところで、例年に比べ厳しい状況というのはなかった。希望者が少なかったこともこの一因かと考えられる。
柄澤部会長	【議題2 農福連携への取り組みについて】 就労・サポートのだの工藤委員から情報提供がある。
工藤委員	農福連携とは障がいを持つ方と農業との連携、取組全てを指す。千葉県が推進しており、全農の千葉支部が研修等を行っている。発端は柏市で農福連携について上手くいった事例があり、管轄しているJAちば東葛から野田市でも行いたいと話があった。JAちば東葛と県が委託する千葉県障害者就労事業振興センターが連携して農家と事業所のマッチングを行い、期間限定で両者に賃金等の負担なく行える「お試しノウフク」を実施した。今回この協議会に取り上げたのは、コロナの影響で外国人労働者の研修の受入れがほぼなくなったこと、農家の高齢化、担い手不足により農業も人材不足のため。そこでポイントとなるのが就労系事業所の取り組む施設外就労で、農家に出向いて農業の体験を行うことができること。行う作業については、ほとんどが単純作業。土地が広大のため、パートやアルバイトを一人雇うよりも、複数の利用者に支援者一人がつく1ユニットで作業してもらう方が作業量は上がる。箱折り作業を実際に体験したが、一週間に千箱必要な農家で、繁忙期は毎日この作業がある。今回、知的障がい、発達障がいのある利用者が作業を行ったが、農家の方は障がいのある方が仕事できると思っていなかったとのこと。障がいの特性で同じことを繰り返すことで作業スピードは上がり、一人健常者の方を雇うより、1ユニットでやってもらえるなら、お願いしたいとのこと。今回の取組について若手農家が興味をもっており、地区は木間ヶ瀬地区と福田地区。しかし、一事業所が担えるのは一農家が限界。課

	題は、福祉も人材不足であり、農業には繁忙期と閑散期があるため、期間限定での雇用となってしまう。JAちば東葛の担当者からは来年も取組があると聞いている。配付した資料のとおり、お試しであっても契約を結ぶ必要があるのは、事業所の保険を適用するため。今後、特別支援学校でも就労先として選択肢が広がることだと思う。課題は、事業所に農業の知識を有する者がいないため、指導できる人を増やさないといけない。
山中課長補佐	工藤委員がご指導している際に、農政課長と一緒に見学させていただいた。利用者の二人が作業をしていたが、黙々とこなしていた。農家が障がいのある方を直接雇用していたら指導の仕方など分からない点があるが、しっかりと指導員が指導してくれるのなら、この事業がもっと広まることを期待したい。今度若手農家の集まりがあるのでそこでも今回の取組を紹介したいと思う。
柄澤部会長	障害者就労振興センターから来年度は何件ほど取り組む予定か聞いているか。
工藤委員	予定では10件ほどと聞いているが、順調に進んでいないとのこと。やっていただけるなら是非やってほしいと言われている。
柄澤部会長	露地栽培でないといけないのか。ハウスでも可能なら今年度内でもまだやれるのでは。
工藤委員	やれる農家があれば担当に連絡して、調整することは可能と思われる。
柄澤部会長	今回のような取組は農家に知らされているのか。
山中課長補佐	家が農家であり農協の組合員だが、農協から周知するようなチラシやパンフレットはもらっていなかった。今回お試しノウフクを実施した農家は、元々障がい者雇用を検討しており、農福連携について積極的であった。若手の農家からも繁忙期に雇用したいがシルバー人材でも見つからないとの話が出ていたので、今度、若手農家の集まりの場で紹介したいと思う。
柄澤部会長	工藤委員として、話が広がったときに他の事業所も一緒になって取り組みたいということか。
工藤委員	やりたいと言った農家が10人近くいたと聞いているが、事業所が対応できるのは一農家に対し一事業所のみ。これから活動を広げようとして福祉サイドでできませんとなったら、そこで

柄澤部会長	話が終わってしまう。野田市の関係者で話し合って、少しずつでも継続して、このような取組が途切れないようにしたい。 まずはお試しノウフクについて、やってみたいという事業所はあるか。
内藤委員	関宿作業所としての方向性は設備的に事業所が狭く、外での就労が中心となっている。市の施設の清掃業務で外に出ることが多い。農業は繁忙期と閑散期があるため、閑散期にどのような仕事を提供できるか考える必要があるが、農業を体験できて収入も得られるというので興味はあるが、実際に取り組むかは検討する必要がある。
柄澤部会長	実際に行うとしたら、不安な点は何かあるか。
下川委員	どこまでの知識が必要なのか。見学をしてみたい。
内藤委員	お試しノウフクを行った２名は、農業に興味があって仕事をしたのか、事業所が経験させるために促したのか。
工藤委員	後者。柏の前例は前者。元々事業所で農業を行っていて、農業を分かっている人を派遣した。今回の２人は知的障がいと発達障がいがあり、全く農業は分からない。やりたいかと普通に聞いてもやりたくないと言うかもしれない。就労支援の一環として、今は企業実習に行けない状況でもあり、新しい職場を体験してもらうために今回行ってもらった。農業の知識がない事業所であったため、通常どおりの説明でもうまくいかなことがあった。今回のお試しノウフクで難しい事例を持って帰ることができたため、それぞれの事業所でも体験した内容を各事業所と共有して、次回以降は準備して進めると良いのではないかな。
柄澤部会長	実際にウィズパートナーで農福連携を行っていて、収益の面はどうか。
新井委員	正直厳しい。
柄澤部会長	なぜやるようになったのか。
新井委員	代表の自宅に畑があり、休耕地にするのはもったいない。利用者も増えていたため、農業もやるようになった。徐々に作る作物も増え、利用者相手に安く売るようになった。利用者の中にも実家が農家の人もいて、小さいころから農業を手伝っている人にずっと内職作業をやってもらうのは難しい。支援員にも

	農業経験者がおり、徐々に耕作する面積は増えている。夏場の暑い日、冬場の寒い日は働きたがらないため、支援員がどのように促すか考える必要がある。自分たちで作った作物を自分たちで食べる時は幸せそう。
柄澤部会長	農福連携をいきなり本格的に行うと難しいものがあるが、お試しノウフクから行うことで良いきっかけになる。 野田市の農家は減っているのか。
山中課長補佐	今の機材が壊れたらやめるという人が多い。各農家に今後の意向についてアンケートを採っている。農地の集約化、若手農家に集約する等、休耕地ができないように努めているが、農家は減っている現状にある。
柄澤部会長	野田市の農地の割合は多いのか。
山中課長補佐	調整区域と呼ばれるところが6割から7割程度か。
柄澤部会長	調整区域ということは、転用するのは難しいと思うので、なるべくなら農地のままの方がいいということか。
山中課長補佐	農地のまま農業を続けてもらいたい。 今回の農福連携について、農家に対して「トイレが必要」等の条件を言っていただけならば、協力しやすい。
柄澤部会長	各事業所で、実際にやると想定して、どういったものがあればやれるのか。農地は基本的に広大で、トイレがないと難しいと思うが、トイレといっても簡易トイレでも対応できるのか。具体的に案をあげていただけると全体で検討し、課題解決に向けて動けるのではないか。この件については就労サポート・のだが窓口としてやっていただけるのか。農政課の方がよいのか。
工藤委員	経験に基づいて、情報提供や助言はできる。
山中課長補佐	農家に対して何があったら良いか等の相談であれば対応できる。工藤委員とも相談して対応したい。
柄澤部会長	まずは工藤委員がまとめるのがよいか。せっかくの機会なので、皆さん是非検討をお願いしたい。
工藤委員	農家の方からはいつでも見学に来ていいと言われている。現場を見た方が一番分かりやすいかと思う。

柄澤部会長	見学会を開催することは可能か。
工藤委員	可能である。福祉側からの要望があれば農協もすぐに動いてくれると思う。研修も行ってくれるかと。JA ちば東葛が協力的なのでチャンスだと思っている。
柄澤部会長	まずは見学会くらいであれば参加してみたいと思う方はいるか。 (8人挙手) 10 団体くらいが前向きに検討しているとのことで進めていただけないか。 冬の時期になるが仕事はあるか。
工藤委員	JA ちば東葛に相談して、冬でも対応できる農家さんを探してもらおう。
加藤会長	配付資料の受託契約書について、受託者は県になるのか。 職員1名、利用者3名で1時間あたり1,400円というのはいかななものか。
工藤委員	受託者は千葉県障害者就労事業振興センターになり、農家の賃金等の支払いはない。 お試しなのでこのような金額設定。お試しノウフクで働いてみて、その後は労働力に応じて農家と事業所が協議して決定することになる。
加藤会長	昨年、施設外就労としてみかん園で働いてもらったが、職員に対する賃金は頂かないが、利用者に対しては最低賃金を支払ってもらう契約をした。障がいがあるから賃金を安くするのはなく、その分、職員が指導するというところでこの契約に至った。
柄澤部会長	【3 その他】 他にここで協議したいこと、今までの話の中でもっと深掘りしたいことはあるか。
加藤会長	市に納めているトイレットペーパーの作業について、事業所の宣伝をするために包装紙に事業所名を入れ、絵やスタンプで加工していただいているが、先ほどトイレにトイレットペーパーを見に行ったら包装が取られた状態で並べられていた。清掃員に聞いたら、並べる際にははがして並べているとのこと。市の職員や清掃員には周知されるが、市民の方には伝わらない。事業所のそらいろはトイレットペーパーの側面にもスタンプが

柄澤部会長	押されていた。このような現状、事業所の工夫を共有したい。 宣伝効果を期待して行っていると思うが、実際にやってみて、期待していたものと異なっていたこと、それぞれの事業所で工夫したこと等を報告、振り返りをする機会を設けたい。どういう加工をすれば事業所が市民に周知されるか等、次回に話し合えたらと思う。
山崎係長	65 歳以上の就労継続支援 A 型について、まとめたものを配付している。特に変わったことはないが、取扱いを分かりやすくまとめた。 今後の開催予定について事務局から説明を行う。その他、特に意見がなかったため、午後 3 時 30 分、閉会した。 【閉会】